

男女共同参画を推進するために、さいたま市内で様々なかたちで活動している方を紹介します。

# 地域に感謝！ 歌に元気を託して

75歳の元気歌手 玉利要さん



12月のある日、南区のデイケアセンターではクリスマス会が催されています。

最後の出し物として、頭に鉢巻、舞台衣装に身を包んだ玉利要さん（合格さん）が登場し、涙と笑いを織り交ぜた、独りミュージカルがはじまりました。懐かしい歌に、手拍子とともに一緒に歌いだす高齢者の皆さん。コミカルな衣装とトークでも、場を沸かせます。変化に富んだ玉利さんのステージは、時をたつのを忘れさせます。

玉利さんは、「合格」という芸名でこれまで2700曲以上を作詞し、自ら歌手としてCDを出しています。市のボランティアに登録し、数多くの福祉施設などで、歌と踊りを披露しています。

こんな玉利さんの活動の原動力は何なのでしょう。

玉利さんは、27歳のときに工作機械の会社を起業し、成功。仕事中心の毎日を送っていました。社内結婚して、子宝にも恵まれましたが、家に帰るのは月に数度。重度の障害を持つ息子さん

のことは妻に任せきりにして、ひたすら仕事に打ち込んでいました。

しかし、ある日、夢の中に、話すことのできない息子さんが現れ、「お父さん、遊びに行こうよ」と言葉を発したそうです。その時の感動を歌に託したことをきっかけに、46歳の時に作詞家・歌手としての第二の人生を歩み出されました。

「私も息子も、地域の人々に支えられて今があります。こんな地域の人々に恩返しをしたい。私はさいたま市が大好きなんです。私の歌で少しでも地域の皆さんが元気になるれば」と玉利さん。

福祉施設では、「長生きONDO」を歌い、長生きの秘策を伝授。自身も息子さんが寂しがらないように、100歳まで生きたいんだと熱く語ります。

長生きしたけりや 腹八分

ご飯もおかずも 良く噛んで  
人にやさしく 共に笑えば

血圧さがって ますます元気

（「長生きONDO」の二節）



今日も玉利さんは、歌を通じて、地域に元気を振りまいています。

仕事人間だった玉利さんが、自然体で地域を元気にできるのは、家庭や地域の大切さに気付いたから。「家族は財産。妻に感謝、地域に感謝です。会社で働いているうちから地域のコミュニティに参加していくのは、時間的にもなかなか難しいことです。でも、何もしないのではダメ。例えば、道で出会った時に『花がきれいですね』と一声かける、たわいもない会話が大事。昔のままじゃダメ。自分が変わるなきゃ」

広告スペース

